

(通し 番号)	島田市子ども読書活動推進計画 第三次計画 進捗状況管理表			A (取組・成果共に、よくできた) B (取組はできたが、成果には課題が残る) C (取組・成果共に、もっと努力したい)	
	1 家庭における子どもの読書活動の推進	担当課	H30評価	H30 取組内容と課題	H29評価
	1-1 (1) 保護者の理解促進のための情報提供や学習会の開催	社会教育課 図書課			
	1-1-1 ■ 保護者への情報提供				
1	・広報紙やホームページなどを活用し、子どもの年齢にあった良い本の情報や読書に関連したイベント情報の発信を行います。		A	・FMしまだで放送されている読み聞かせ番組を、図書館のホームページで紹介している。 ・「こどもとしょかんだより」を図書館のホームページで公開している。	A
2	・親学リーフレット「3さいっこがんばりノート」「親学ノート」の配付や家庭教育講座、家庭教育学級などを通して、家庭での読み聞かせや読書の重要性について伝えていきます。		A	各リーフレットの配付を行った。就学時健診を利用した家庭教育講座では、18小学校で実施し、読み聞かせの大切さを伝える。	A
	1-1-2 ■ 学習会や講座の開催				
3	・保護者や読み聞かせボランティア等を対象に、読み聞かせや読書の重要性を学ぶ学習会等を行い、保護者や読み聞かせボランティアの意識向上を図ります。		A	読み聞かせボランティア、放課後児童クラブ職員、保育園職員を対象とした研修会を開催し、23名が参加した。(12月1日開催)	A
4	・家庭教育講座などの学習会を通して、子ども読書活動の重要性や読み聞かせなどの方法について保護者へ周知します		A	家庭教育講座で、本の大切さや楽しさを伝え、図書館などで実施しているお話し会への参加を促した。	A
	1-2 (2) 家庭での読書活動への支援	社会教育課 図書課			
	1-2-1 ■ 家庭での読書活動の推進				
5	・おはなし会への参加を呼びかけ、親子で本に出会い、本に親しめるよう支援します。		A	家庭教育講座や子育て広場で、本の大切さや楽しさを伝え、図書館などで実施しているお話し会への参加を促した。	A
6	・大人も本を楽しみ、家族団らんの中で家庭での「読書の時間」がもてるように読書活動を推進します。		A	子育て中の人を対象とした、絵本の広場を年2回開催する。(6月10日開催、3月6日開催予定)	A
7	・子どもが読書に親しむきっかけを増やすため、園や学校の読書推進活動を支援します。		A	島田第二中学校に読み聞かせコーディネーターを置き、地域ボランティアを活用し、年12回の読み聞かせを実施した。	A
8	・家庭の日を利用して、「家庭読書」への取組を呼びかけます。		A	家庭の日の取組みのひとつとして、読み聞かせの大切さを講座や家庭教育情報誌「絆」で啓発している。	A
	2 地域における子どもの読書活動の推進	担当課			
	2-1 (1) 地域施設における図書コーナーの整備と充実	社会教育課 子育て応援課 図書課			
	2-1-1 ■ 図書コーナーの整備と図書資料の充実				
9	・児童センターや地域子育て支援センター等においては、書架スペースが限られているため、子どものニーズに合った図書資料を厳選するとともに、寄贈資料や市立図書館資料の受け入れを積極的に行うことで、子どものための図書資料の充実に努めます。		B	・絵本以外に図鑑や歴史本、話題の本、リクエスト本などを購入した。学校から除籍本をもらい増冊でき、子どもの読書への関心が広がった。 ・児童書が高額で購入できない。本の購入予算がない。消耗品費の中で本を購入するため、図書購入費を確保できるように、予算の使い方を工夫していく必要がある。 ・全学年にあう本を選ぶのが大変。今後は図書館と連携し、子どもたちにあった本を選んでいきたい。	B
10	・子どもたちが放課後の時間を過ごす放課後児童クラブには、本を身近に置くように働きかけます。		A	図書館に行って本を借りたり、図書館の団体貸出しを利用している。	A
	2-1-2 ■ 施設職員の研修機会の創出				
11	・地域における施設の職員が、子どもに様々な読書活動の機会を企画・提供するために、研修機会を確保できるよう支援します。		B	・2月に金谷図書館が行う研修を施設の職員に対しても周知したが、公民館職員を対象とした研修会の実施にはいたっていない(公民館) ・職員研修の実施。指導員が2月1日の読み聞かせ学習会に参加し、読み聞かせやどんな本が良いか等について学んだ。多くの施設で職員が参加できるように、勤務体制などの工夫を促したい(児童クラブ)	B
12	・各施設において、職員同士が子どもの読書活動の推進について情報交換する機会を設けるよう働きかけます。		A	社会教育課施設担当者会議で情報交換を行い、子どもの読書活動について各施設での取組みについて依頼した。	B
	2-1-3 ■ 読み聞かせやおはなし会の実施				
13	・各施設が独自に企画する子どもを対象とした行事の中に、今後も読み聞かせやおはなし会を意図的に取り入れていきます。また、妊娠中の母とその家族を対象とした行事では、胎児期からの読み聞かせの重要性を伝えていきます。		A	・読み聞かせ講座など施設主催の企画を実施している。(8施設中3施設=伊久身「おはなしカフェ」、金谷「元気キッズ」、北部「子育てふれあいネット」) ・行事や季節にあった絵本や紙芝居の読み聞かせ等を実施(こども館、児童センター、児童館、児童クラブ、支援センター) ・日常的に読み聞かせを実施(児童クラブ) ・ボランティアによる読み聞かせを実施(児童クラブ、支援センター) ・「あそび・絵本」の講座を実施し、読み聞かせの大切さ・本の選び方等を伝えた(マイ支援センター登録をしている第1子親子対象) ・毎月第4金曜に、社会教育課主催の「子育て広場あかちゃん部」に参加し、0歳児とその親に向けて、わらべうたや絵本の読み聞かせ、おすすめ絵本の紹介を行っている。	A
14	・公民館は、読み聞かせボランティアの活動拠点としての利用を促進し、子どもたちに本の楽しさや魅力を伝え、本と親しむための活動の場となるよう努めます。		A	公民館等では、施設を拠点として活動している読み聞かせボランティア団体の事業を公民館便りで住民に周知したり、定期的な活動ができるように期間外予約の公用受付など事務的な支援をしている。ボランティアや住民に図書の貸し出しを行っている。	A

	2-1-4	■ ボランティアの育成				
15		・ボランティアを育成していくために、関係機関は講習会や研修会の充実に努めます。		A	読み聞かせ研修会を1回開催した。(12月1日)。その他、県などが主催する講座や研修会の案内を施設等で配架している。 読み聞かせボランティア講座として、紙芝居の講座を開催している。	A
16		・島田の民話や昔話を取り入れるなど、郷土愛を育む活動のできる読み聞かせボランティアの育成に努めます。		A	静岡県図書館大会に、図書館職員、社会教育課担当、市内ボランティアが参加した。	A
	2-1-5	■ ボランティアの活用				
17		・公民館では、中学生、高校生のボランティアを積極的に受け入れます。		B	六合公民館を拠点として活動している読み聞かせグループ「おはなしの部屋ねこバス」が六合公民館を会場に中学生ボランティア(六合中学校)による読み聞かせを行った。(8施設中1施設)	B
18		・県子ども読書アドバイザーの活用を進めます。		A	平成29年度から4名がペアレントサポーター読書チームとしており、6月10日に行われた家庭教育講座「絵本の広場」には全員が参加した。	A
	2-1-6	■ 市立図書館との連携				
19		・公民館等と市立図書館が連携し、図書館職員による子どもの興味に合わせた本の入替えを継続するなど、子ども読書活動の推進に努めます。		A	図書機能がある施設では、図書館職員による本の入替えを実施している(8施設中5施設)	A
20		・市立図書館が行うおすすめ本やイベントに関する情報を公民館利用者や児童センター、地域子育て支援センター、放課後児童クラブなどに提供します。		A	子育て広場(みんくる)で、金谷図書館職員によるミニ講話を行って図書の紹介をしている(月1回)	A
3 圏・学校における子どもの読書活動の推進			組織課			
3-1 (1) 幼稚園や保育園における読書活動推進のための取組			保育支援課			
	3-1-1	■ 図書資料・コーナーの充実				
21		・幼稚園、保育園に対して、単に蔵書数を増やすだけでなく、発達段階に応じた興味に沿った図書資料の充実を奨励します。		A	市内保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育所の全34園中26園で蔵書の増、31園で発達段階に応じた図書資料を揃えるようにしている。	A
22		・読書活動の中核である各園の図書コーナーがより本の読みやすい場となるよう、その整備を促します。		A	20園が整備を行った。 ・図書コーナーにカーペットを敷き利用しやすくした ・各フロアに絵本コーナーを整備し利用しやすい環境にした ・図書と棚のテープを一致させ整理整頓しやすくした ・季節や年齢ごとの絵本を子どもが利用しやすいよう並べた	B
	3-1-2	■ 職員等に対する研修の充実				
23		・子どもの発達段階に合わせた選書をするための知識や情報収集力を養うとともに、読書活動に関する技能の向上を図るため、職員を対象に、専門講師による読書活動に関する研修を行います。		B	9園で実施、または実施予定。 テーマ：絵本の選び方、読み聞かせのしかた、絵本の大切さ等 市立図書館職員による研修の実施を希望する施設が10園あったため、来年度の実施に向けて調整を行う。	B
	3-1-3	■ 関係機関との連携の促進				
24		・学校、市立図書館等との連携を密にするとともに、読み聞かせボランティアグループとの連携を一層深め、読書活動が充実するよう促します。		B	15園が市立図書館との連携を、19園が読み聞かせボランティアと連携している。 市立図書館職員による研修やおはなし宅配便を希望する施設について、来年度の実施に向けて調整をしている。	B
	3-1-4	■ 読書活動の工夫				
25		・幼稚園、保育園においては、乳幼児期における読書活動は、人との温かなふれあいを基盤に視覚や聴覚を通して様々な取り組みられることが大切であることを念頭に置き、読み聞かせやパネルシアター、エプロンシアターなど、多様な読書活動が展開されるよう支援します。		A	28園が多様な読書活動を実施している。 ・読み聞かせ(保育士・外部(保護者・ボランティア等)) ・エプロンシアター・パネルシアター・セルシートシアター ・紙血シアター・紙芝居・ペープサート・てぶくろ人形 ・指人形・素話・科学絵本の内容を自分たちで体験 ・大型絵本 ・誕生会などの行事や未就園活動でも読み聞かせを活用	A
26		・子どもの読書活動への興味や関心を高めるとともに、読書意欲を引き出すため、「島田市子ども読書100選」の推奨など、幅広い分野の選書に努めます。		A	19園が「島田市子ども読書100選」を参考に選書している。	B
	3-1-5	■ 障害のある子どもに対する読書活動の支援				
27		・「こども発達支援センター」では、その障害の種類や特性に応じた読書活動を展開できるよう、蔵書の充実を図ります。		A	・図書館による除籍本配付を利用して簡単な繰り返しのお話や図鑑など、障がい等の特性に応じた絵本を増やし、園児の身近な場に置くようにした。 ・毎月紙芝居を定期購入し、季節に応じたお話しを読み聞かせた。	A
28		・障害のある子どもたちが楽しめるような読書活動を取り入れるよう努めます。		A	・月に1回図書館の団体貸し出しを利用し、様々な大型絵本やエプロンシアター、絵本等に触れる機会を作った。 ・月に1回読み聞かせボランティアによる「まめっちょの会」(読み聞かせ会)を実施。わらべうたやふれあい遊びも取り入れ、子どもたちが楽しみに待つ時間となっている。	A

	3-2	(2) 学校における子どもの読書活動の推進	学校教育課		
	3-2-1	① 読書活動の充実			
	3-2-1-1	■ 学校図書館に係る年間指導計画等の作成・活用			
29		・各教科や特別活動、総合的な学習の時間など全教育活動を通して学校図書館の活用が図られるよう、各学校で学校図書館に係る年間指導計画等を作成し、教育課程に位置づけます。	B	ほとんどの学校で年間指導計画は作成されているが、他の教育活動との兼ね合いもあり、計画通りに実施できないこともある。年度末に見直し、さらなる改善を図っていく必要がある。	B
	3-2-1-2	■ 読書活動及び学校図書館を活用した学習活動の充実			
30		・学校図書館の「読書センター」としての機能や、「学習センター」「情報センター」としての機能の充実と活用を図ります。アクティブラーニングの視点からの授業改善（主体的・対話的で深い学びの実現）に向けて、子どもの主体的・意欲的な学習活動の充実や情報活用能力等の育成のため、調べ学習や言語活動の充実、図書館利用方法の学習を推進します。	A	国語科や総合的な学習の授業を中心に、学校図書館を「学習センター」「情報センター」として活用する授業実践を行った。	A
	3-2-1-3	■ 本に親しむ機会の提供			
31		・朝読書や読み聞かせが、全ての学校で実施されているので、今後も継続するとともに、内容の充実を図るよう努めます。	A	児童生徒の読書の幅を広げるような選書がなされ、9類以外の本も紹介されることが多くなった。	B
32		・子どもの読書の実態を十分に踏まえた読書活動を推進します。例えば、図書委員会が中心となって、新刊やお気に入りの本を紹介したり、読書活動を盛り上げるために取り組んだりする活動を継続・推進します。	A	昨年度より、継続して、おすすめの本コーナーを設置したり、掲示物を作成したりする環境整備を行っている。定期的に、図書委員会を中心に、児童・生徒のアイデアを生かした楽しいイベントを企画・運営している。	A
	3-2-1-4	■ 島田市子ども読書100選の推奨			
33		・子どもが良書に出会い、読書の楽しみを味わえるよう「島田市子ども読書100選」を推奨します。「島田市子ども読書100選」については、平成30年度改訂を目指して検討していきます。	A	島田市子ども読書100選についてのアンケートを様々な年代、職業の方から集め、選書に偏りのないようにした。「読書センター」だけでなく、「学習センター」「情報センター」として機能するような選書の基準を設けた。	A
	3-2-1-5	■ 家庭での読書の推奨			
34		・読書習慣の定着や読書を通して家族のコミュニケーションを深めるため、家庭での読書活動を推進します。	A	学校によって、呼び方は様々であるが、「親子読書」や「家読」等に取り組んでいる。	A
35		・保護者会、入学説明会、家庭教育学級や学校だより等で、読書の意義や必要性、読書の楽しさを保護者に啓発します。	A	具体的な方法を示しながら啓発を行っている。すべての家庭教育学級で読み聞かせ講座を行っている。	A
	3-2-1-6	■ 障害のある子どもの読書活動の推進			
36		・特別支援学級では、発達段階や障害の状況、多様なニーズに応じた学級文庫の充実を図ります。	B	障害に応じた本の購入や学級文庫の設置や読み聞かせでの配慮を行っているが、それぞれの障害に合った書籍を十分に揃えることはまだできていない。	B
37		・障害のある子どもが利用しやすいように、配架や書架の高さや表示等の環境を整えたり、貸出・返却方法を簡素化したりします。	A	貸出カードを忘れても、返却・貸出ができるような体制が整っている。	A
	3-2-2	② 学校図書館活動を推進・支援する人的な体制の充実			
	3-2-2-1	■ 学校体制づくりや司書教諭・学校司書の配置・促進			
38		・校内では、校長のリーダーシップの下、司書教諭・学校図書館担当者が中心となり、図書館活動のための協力的な体制づくりをしていきます。また、司書教諭がコーディネーター的な役割をし、教員一人一人が学校図書館を活用した授業を行えるよう促します。	A	国語の授業を中心に関係する本のリスト（並行読書）が活用されることが増えてきた。	A
39		・12学級以上の学校だけでなく、11学級以下の学校にも司書教諭資格者を配置できるよう努めるとともに、学校内における司書教諭の職務に対する理解を促します。	A	司書教諭の免許をもっている教員を増やすことが急務であるので、司書教諭の免許を取りやすくすることや免許を有する人を採用することの必要性を様々な場で伝えた。	A
40		・学校司書が兼務にて全校に配置されていますが、専任配置できるよう検討します。	A	3校兼務を解消するように予算要求している。	A
	3-2-2-2	■ 学校図書館に係る研修の実施			
41		・図書館教育や読書指導の一層の充実を図るために、司書教諭・学校図書館担当者や学校司書を対象とした研修会を今後も開催し、資質の向上を図ります。	A	学校司書の研修会を年間7回行った。司書教諭・学校図書館担当研修会は、年間2回行い、資質の向上に努めた。平成30年度は、調べ学習についての研修に重点を置いた。	A
	3-2-2-3	■ 学校司書・図書ボランティアとの連携			
42		・学校司書は、学校図書館の諸事務に当たるとともに、レファレンスサービスや教材等の準備への協力など、授業者との連携を図ります。	A	学校司書は、授業者が必要とする本を選書し、授業の進度に合わせて手配することができている。	A
43		・学校の読書活動の充実と学校図書館の活性化のために、各学校の実情に応じて、静岡県子ども読書アドバイザーを活用し、ボランティア等を導入したり、ボランティアとの協力体制を整えたりしていきます。	A	司書教諭や学校図書館担当の指示のもと、ボランティアが、積極的に図書館運営にかかわってくださることにより学校図書館の環境整備が行き届くようになった。	A

	3-2-3	③ 学校図書館環境の充実				
	3-2-3-1	■ 魅力的な図書資料等の計画的な整備・充実				
44		・子どもの知的活動を促進し、様々な興味・関心に応えるため、また各教科等における多様な学習活動を展開するために、必要な幅広い分野の資料を計画的に整備します。		B	予算に応じて、幅広い分野の本を購入している。しかし、児童・生徒の人数に合わせて、予算がたてられるので、小さな学校は十分な本を揃えることが難しい。市立図書館の団体貸出等の活用を積極的に進めていく必要がある。	B
45		・情報が古くなった図書資料の廃棄・更新を進めながら、計画的な図書購入によりすべての学校で図書標準100%の達成に努めます。		A	昨年度に引き続き、学校司書の研修会で、廃棄基準を確認した。校長や司書教諭に許可をとり廃棄をすすめることを促した。	A
	3-2-3-2	■ 学校図書館・校内の環境整備				
46		・学校図書館が子どもにとって行ってみたくなる場となるように、季節感あふれる掲示やくつろいだ雰囲気読書ができる環境整備に努めます。また、校内に学校図書館に誘うための掲示や仕掛け作りをします。		A	司書教諭、学校図書館担当者、学校司書、ボランティアによる環境整備が全ての学校で取組まれている。季節感あふれる環境が整えられている。	A
47		・魅力ある図書資料や学習に活用できる十分な資料が見つけやすく、手に取りやすい状態で配架されていることも大切です。書架や資料自体の配置について、工夫・改善します。		A	司書教諭、学校図書館担当者、学校司書、ボランティアによる環境整備が全ての学校で取組まれている。図書館支援員同士が互いの仕事の様子を見たり、情報交換することにより、よりよい配架に努めている。	A
48		・図書管理ソフトを市内で統一できるよう努めるとともに、データベース化した学校図書館の管理・運営(※12)を継続し、活用状況を把握し、指導の振り返りや蔵書点検等に有効活用していきます。		A	今年度、図書管理ソフトを市内で統一されたことで、今後学校司書が異動になった場合の負担を減らすことができる。	A
	3-2-3-3	■ 学校間、市立図書館との連携				
49		・子どもたちへの図書資料提供が充実するために、市立図書館の団体貸出や学校間協力貸出の活用を図ります。また、団体貸出搬送業務についても検討していきます。		A	学校図書館担当者研修会で、団体貸出について説明し、各校、必要に応じて活用をしている。	A
50		・学校間の資料検索については、学校図書館間LANシステムの構築に合わせて検討します。		B	ネット回線の問題等があり、便利な機能が使えないことがあるので、教育総務課と連携し、前向きに検討している。	B
4 図書館における子どもの読書活動の推進			担当課			
4-1 (1) 市立図書館の整備と機能の充実			図書館課			
	4-1-1	■ 図書館施設の整備				
51		・子どもにとって魅力あふれる図書館を目指し、自発的な読書活動への意欲を高めるため、読んだ本や時期が記録として残せる「読書通帳」をはじめとするさまざまなサービスの導入に努めます。		A	・市内全図書館に読書通帳機が設置され、多くの児童に活用されている。 ・小学生の施設見学の際には、カードと共に読書通帳も作成してもらおうよう学校へ声掛けをした。 ・川根小学校では新1年生に対して、読書通帳利用法のオリエンテーションを実施した。 ・読書通帳交付実績(平成24年9月22日から平成31年1月末までの累計交付5,598冊)	A
52		・バリアフリー対応により車いすやベビーカーの使用も可能とすることで、身体の不自由な方や乳幼児を連れての方が利用しやすい環境を作ります。		A	島田図書館(ブックカート10台・ベビーカー5台設置) 金谷図書館(ブックカート4台、ベビーカー2台設置)	A
53		・おはなしの部屋を、より多くの親子が参加しやすくなるよう環境整備します		A	おはなしの部屋周辺に、幼児絵本を配架し、乳幼児とその保護者の目に触れやすい工夫をしている。 <おはなし会参加者数> ・島田図書館(963人) ・金谷図書館(270人) ・川根図書館(311人) 平成31年1月末現在	A
	4-1-2	■ 図書資料等の充実				
54		・子どもの読書意欲を高めることや、調べ学習に取り組む子どもの期待に応えることができるよう資料や情報の充実に努めます。		A	・毎週、児童書の選書会議を開いている。 ・島田市子ども読書100選コーナーを設置している。 ・各館のYAコーナーの資料充実に努めている。	A
55		・特集コーナーの設置や企画展示の実施など、図書資料を利用したくなる工夫を講じます。		A	・長期休暇の前に、児童の利用増加を図るため、金谷地域の学校図書館に市立図書館蔵書紹介コーナーを設置し、休暇中の図書館利用を促した。 ・「島田図書館にきてね」という新刊リストを市内の小学校全校に掲示している。 ・各館の児童書フロアに、季節や行事に沿った特集コーナーを設置している。	A
56		・小学校高学年から中学、高校生向けの本を集めたヤングアダルトコーナー資料の充実に努めます。		B	・市内の中学校・高等学校へ、市立図書館からのおすすめ本や利用案内を載せたチラシを配布した。 ・YA向けのチラシを作成し、中学校・高等学校へ配布した。 ・地元の中学生在ボランティアとしてYAコーナーの整備を行った。	B
	4-1-3	■ おはなし会等の実施				
57		・ボランティアの協力を得ながら、読書週間における「おはなしマラソン」や毎月の定期的な「おはなし会」等をさらに充実させます。		A	・大人の読み聞かせボランティアに加え、大学生ボランティアが1名金谷図書館に加わった。 ・島田図書館で、おはなし会とイベントを組み合わせた「ぬいぐるみ図書館おとまり会」を開催した。	A
58		・現在行っている「おはなし宅配便」をさらに拡充し、子どもが本に親しみきっかけをより多く提供できるよう努めます。		A	幼稚園・保育園だけでなく、子育て支援センター・こども発達支援センターでも「おはなし宅配便」を実施した。	A

	4-1-4	■ 読書ガイドブック（ブックリスト）の作成および広報				
59		・子どもたちに魅力的な読書情報を伝えるため、7ヶ月児健康相談時に「ブックスタート用おすすめ絵本リスト」、3歳児健診時に「キッズブック用おすすめ絵本リスト」、定期的な広報紙として年4回発行の「おすすめえほん」「こどもとしゃかんだより」を作成しています。リスト等のデータは電子化し、図書館HPに載せ、情報発信に努めています。	A	・定期的なリストの内容を一新している。 ・「図書館福袋」「図書館おみくじ」「本の帯まつり」等のイベントを実施し、普段自分では手に取らない分野の本との出会いを演出している。	A	
	4-1-5	■ 職員の資質向上				
60		・子どもの読書活動を支援できる専門的な知識やスキルをもった職員を養成します。各種研修会や講習会への参加を促し、子どもの調べ学習やレファレンスに適切に対応できるようにします。	A	静岡県立中央図書館などで行われる「児童サービス研修」等に参加した。	A	
61		・読み聞かせに関する各種講座や、学校の家庭教育学級等で、講師が務められるよう日々の業務を通して職員の資質向上に努めます。	A	・市内の小学校でブックトークを実施した。 ・小 学校の家庭教育学級で、家庭における読書の効能等について講座を実施した。 ・社会教育課や子育て応援課主催の講座に参加し、図書館のPRや児童書の紹介をする等の実践経験を積み、職員の資質向上を図った。	A	
	4-1-6	■ ボランティアの養成と活用				
62		・環境整備ボランティアを養成するための講座を継続的に開催し、研修内容の充実と参加者の拡大に努めます。	A	修理ボランティア、書架整理ボランティア養成講座を開催し、新規ボランティア登録者を確保している。	A	
	4-1-7	■ 障害のある子どもや外国籍の子どもの読書活動支援				
63		・静岡福祉大学などと連携し、子どもや障害者が利用できる資料の展示や収集に努めます。	B	・拡大読書機を（島田・金谷・川根にそれぞれ1台ずつ）設置している。 ・布絵本やデジタル図書を導入し、専用のコーナーを設置した。	B	
64		・在住外国人の子どもが気軽に図書館を活用できるよう、外国語による児童書の充実に努めます。	B	様々な言語の洋書を所蔵し、図書館の目立つ場所にコーナーを設けている。 学校教育課と連携し、外国籍の子どもの実態を把握し、該当する言語の児童書を団体貸出したい。	B	
65		・特別支援学校に通う子どもを対象とした図書館見学や職業訓練を積極的に受け入れ、図書館の利用方法や読書の楽しさを学んでもらえる機会の充実に努めます。	B	・3館ともバリアフリー対応の施設である。 ・特別支援学校から依頼があった時は、勤労体験の受入を実施している。	B	
	4-1-8	■ 他の公立図書館等との情報交換				
66		・職員の資質向上を図るため、県立中央図書館や他市町の公立図書館、学校図書館との情報交換に努めます。	A	学校図書館支援員と連絡をとり、授業に必要な図書のジャンルやテーマを把握し、市立図書館の選書に活かすよう心掛けている。他の公立図書館とは、随時連絡を取り合い、日常の業務の参考にしている。	A	
67		・職員を、静岡県図書館協会や静岡県市立図書館協議会などの関係団体が主催する各種研修会に積極的に派遣し、資質向上に努めます。	A	可能な限り、すべての職員が担当業務に関連した研修会に参加できるよう年間計画を立てている。	A	
	4-2	(2) 学校図書館や幼稚園・保育園、公民館との連携	図書館課			
	4-2-1	■ 施設見学、勤労体験の受け入れ				
68		・図書館見学の受け入れを積極的に行い、図書館のしくみや利用方法、本の探し方などについて解説します。また、図書館カードを発行することで、図書館利用の促進に努めます。	A	<施設見学の受け入れ> ・島田図書館 15校 624人 ・金谷図書館 3校 332人 ・川根図書館 1校 全校生徒	A	
69		・中学生、高校生、大学生の勤労体験や小学生の一日体験図書館員の希望者を受け入れ、図書館業務について理解を深めてもらうと同時に、図書館の利用促進に努めます。	A	・中学生の勤労体験学習（島田3校6人、金谷2校4人、川根1校11人） ・小学生夏休み一日体験図書館員（島田16人、金谷8人、川根4人） ・NPO法人クロスメディアはまだ主催のこどもわくワーク受入れ（島田4人）	A	
	4-2-2	■ 関係機関との連携				
70		・市立図書館の団体貸出サービスやレファレンスサービスを有効に活用できるよう、関係機関との連携を強化します。	A	・司書教諭研修会の際、市立図書館の利用案内をした。団体貸出などについての文書を各学校へ配布した。夏休みなどの長期休暇の前に、市立図書館の蔵書紹介コーナーを学校図書館内に設け、長期休暇中の市立図書館の利用を促した。 ・保育園、幼稚園の園長会に出席し、図書館事業のPRを行った。	A	
71		・市立図書館の団体貸出だけでなく、国際子ども図書館や県立中央図書館が調べ学習等のために用意しているセット貸出制度の積極的な活用を学校等へ働きかけます。	B	学校へ県立中央図書館の「公共機関等貸出し」の案内をしているが、希望する学校がなかった。	B	
72		・ブックスタート事業（※16）、キッズブック事業（※17）以外にも、他課の事業とタイアップした新たな事業を実施し、子どもたちとその保護者に読み聞かせの大切さを伝える機会を作ります。	A	・社会教育課主催の研修会に講師として出席した。 ・地域子育て支援センター主催の講座に参加した。 ・こども館主催の「すくすくタイム」に参加した。	A	
73		・産業支援機関と連携した子育て中の保護者の就業支援や、家庭読書の時間を捻出するためのヒントとなるコーナーを作ります。	B	・産業支援センターへ就業のヒントになる資料が図書館にあることをPRした。これから就業したい人が求める本のジャンルを把握するため、産業支援センターとの連携を強化したい。 ・家族読書、親子読書の参考になる資料を育児コーナーに配架している。	B	

	4-2-3	■ 合同研修会の開催				
74		・学校図書館、幼稚園、保育園、児童センター、子育て支援センターの職員と市立図書館職員の合同研修会を開催し、情報交換やスキルアップに努めます。		B	・合同の研修会は、日程調整が難しく実施していない。 ・市内の幼稚園、保育園へのアンケートの結果、図書館からの支援を必要としている園を把握できたため、今後個別に対応していきたい。	B
	4-2-4	■ 「読書週間」「子ども読書の日」を通じての啓発・広報				
75		・この期間には、幼稚園・保育園や学校、市立図書館をはじめとする公共機関、ボランティアグループ等がそれぞれ工夫を凝らした啓発や広報に取り組んでおり、今後も引き続きこれらの活動を支援していきます。		A	・春の「こどもの読書週間」には、館内に特集コーナーを設置し、小学2年生へ「としょかんからのしょうたいじょう」を配布している。 ・秋の「読書週間」には、「おはなしマラソン」を実施している。	A